

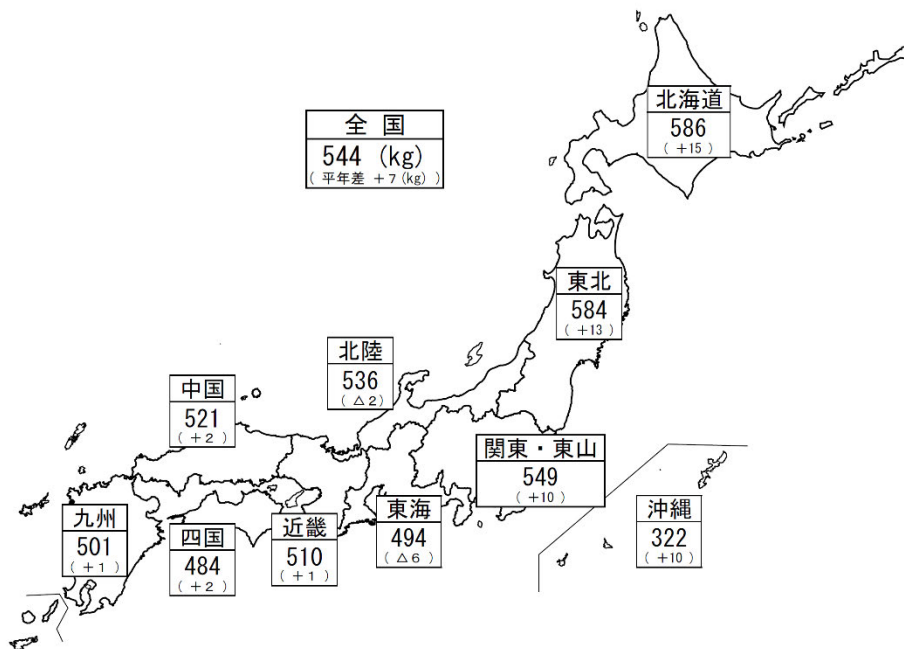
作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

－ 全国の10a当たり予想収量は544kgの見込み －

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は151万4,000ha（前年産に比べ1万7,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は125万9,000ha（前年産に比べ1万7,000ha増加）と見込まれる。
- 2 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は544kgと見込まれる。
これは、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足等の影響があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれ、作柄は平年並み以上と見込まれるためである。
- 3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は683万3,000t（前年産に比べ22万3,000t増加）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふりい目幅ベースの全国の作況指数は102と見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月25日現在）
（1.70mmのふりい目幅ベース）



- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積であり、主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（5ページの【参考1】参照）。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふりい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

◎ 累年データ

水稻（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成16年産	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000	...	...	98
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000	...	...	101
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000	...	...	96
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000	...	...	99
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,623,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,611,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,600,000	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,592,000	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元	1,584,000	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
2	1,575,000	1,462,000	531	7,763,000	1,366,000	7,226,000	99
3	1,564,000	1,403,000	539	7,563,000	1,303,000	7,007,000	101
4	1,545,000	1,355,000	536	7,269,000	1,251,000	6,701,000	100
5	1,531,000	1,344,000	533	7,165,000	1,242,000	6,610,000	101
6 (概数値)	1,514,000	..	544	..	1,259,000	6,833,000	102

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

2 作付面積（子実用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

3 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。

4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

5 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、以下により算出している。

平成26年産以前 : 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。

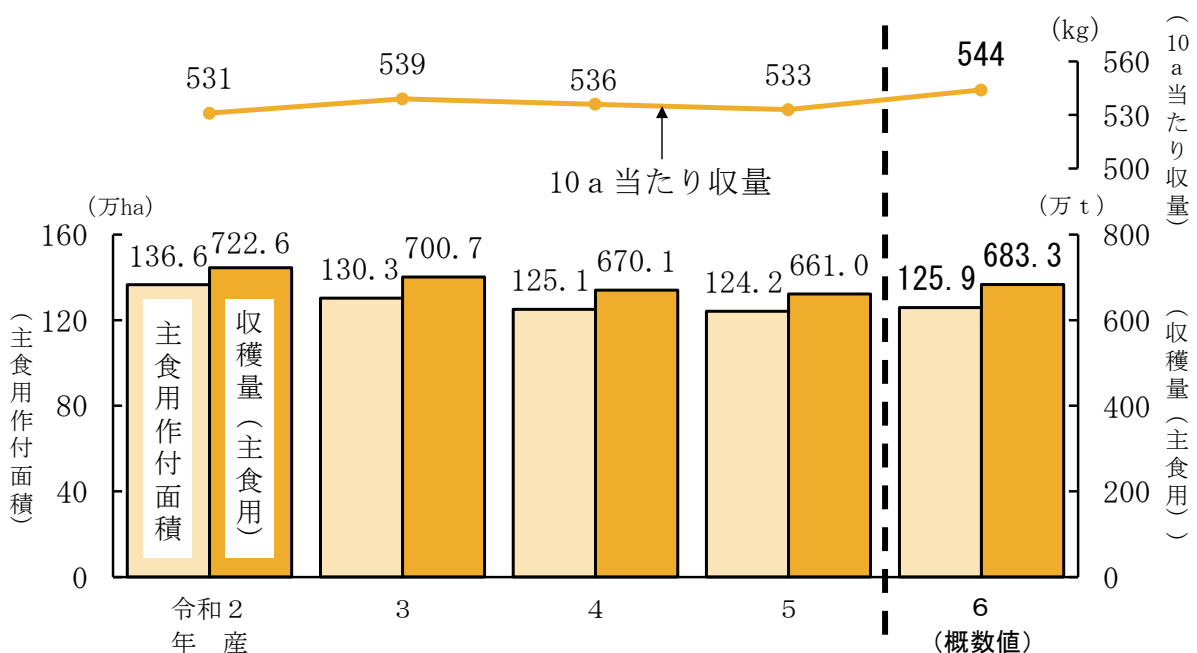
平成27年産から令和元年産まで： 全国農業地域ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅で選別された玄米を基に算出。

令和2年産以降 : 都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。

6 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

7 「..」は、未発表であることを示している。

水稻の主食用作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（全国）



注：10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。

【調査結果】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は151万4,000haで、前年産に比べ1万7,000ha減少が見込まれる。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は125万9,000haで、前年産に比べ1万7,000ha増加が見込まれる。これは、北日本・東日本を中心に飼料用米からの転換等があったためである。

- 2 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は、544kg（平年に比べ+7kg）と見込まれる。

これを地域別にみると、以下のとおりである。

北海道、東北及び関東・東山においては、5月以降、おおむね天候に恵まれ、全もみ数が平年以上に確保されたこと等から、北海道は586kg（平年に比べ+15kg）、東北は584kg（同+13kg）、関東・東山は549kg（同+10kg）と見込まれる。

北陸、東海、近畿、中国、四国及び九州においては、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足等の影響があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれ、北陸は536kg（平年に比べ△2kg）、東海は494kg（同△6kg）、近畿は510kg（同+1kg）、中国は521kg（同+2kg）、四国は484kg（同+2kg）、九州は501kg（同+1kg）と見込まれる。

沖縄県は、台風の影響もなく、おおむね天候も恵まれたことから、322kg（平年に比べ+10kg）が見込まれる。

- 3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は683万3,000t（前年産に比べ22万3,000t増加）と見込まれる。

表 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量
（全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10 a 当たり予想収量			主食用 作付面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③＝①×②
	実 数	前年産との比較		実 数 ①	前年産との比較			
		対 差	対 比		平年との比較	前年産との比較		
	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t
全 国	1,514,000	△17,000	99	544	7	11	1,259,000	6,833,000
北 海 道	102,800	1,100	101	586	15	7	83,700	490,500
東 北	400,200	△3,000	99	584	13	15	319,800	1,868,000
北 陸	205,300	△3,000	99	536	△ 2	23	175,800	940,400
関 東・東 山	285,300	△4,200	99	549	10	5	235,000	1,290,000
東 海	94,500	△2,400	98	494	△ 6	0	83,400	412,200
近 畿	98,000	△1,300	99	510	1	7	90,600	461,700
中 国	100,100	△1,600	98	521	2	7	90,400	471,000
四 国	46,000	△ 900	98	484	2	2	42,300	205,200
九 州	181,500	△1,700	99	501	1	4	138,200	692,600
沖 縄	643	42	107	322	10	1	557	1,790

注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

2 10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）は、1.70mmのふり目幅で選別された玄米の重量である。

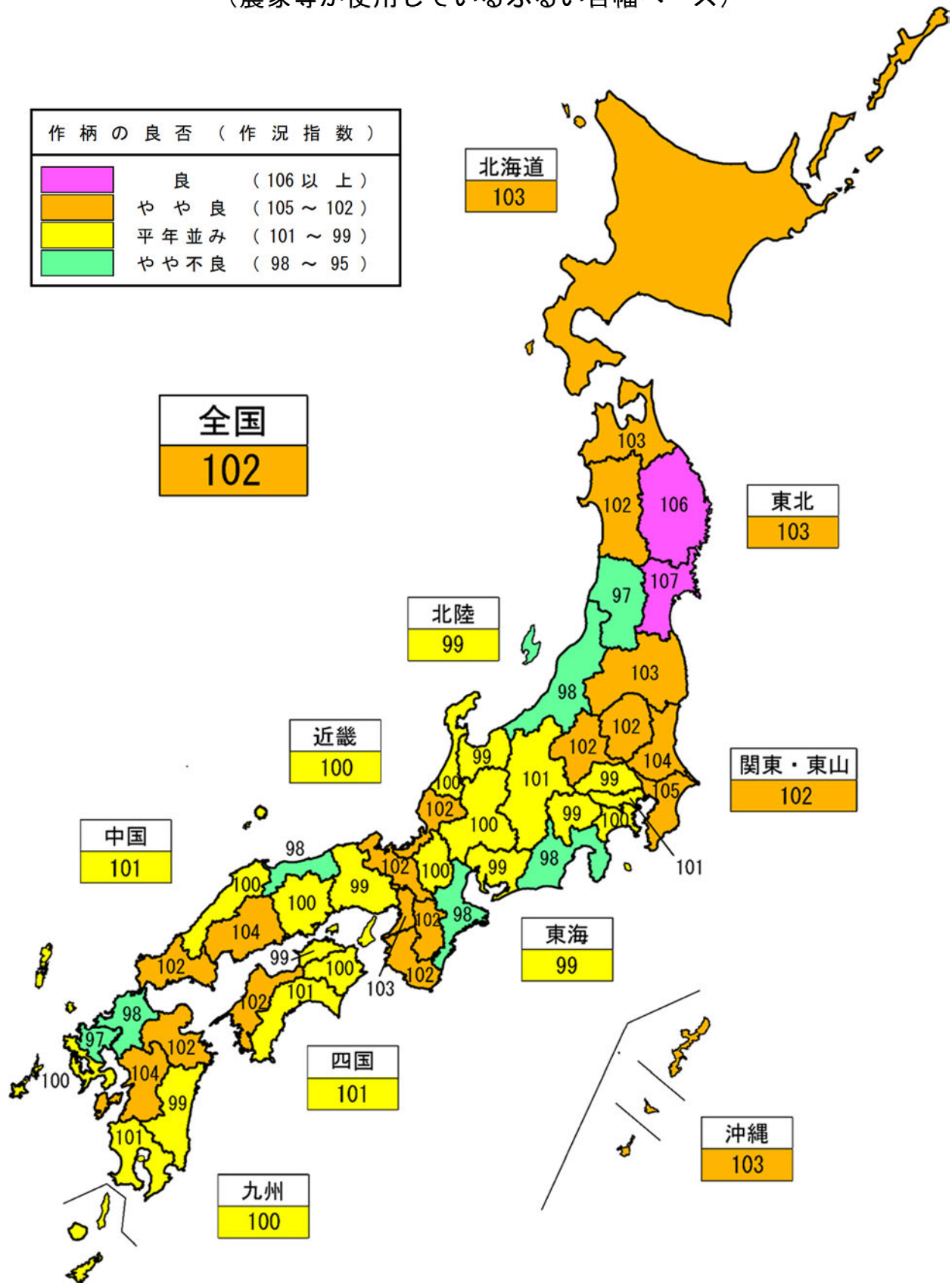
3 10a当たり予想収量の平年との比較は、10a当たり平年収量との比較である。

4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。

5 予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

6 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

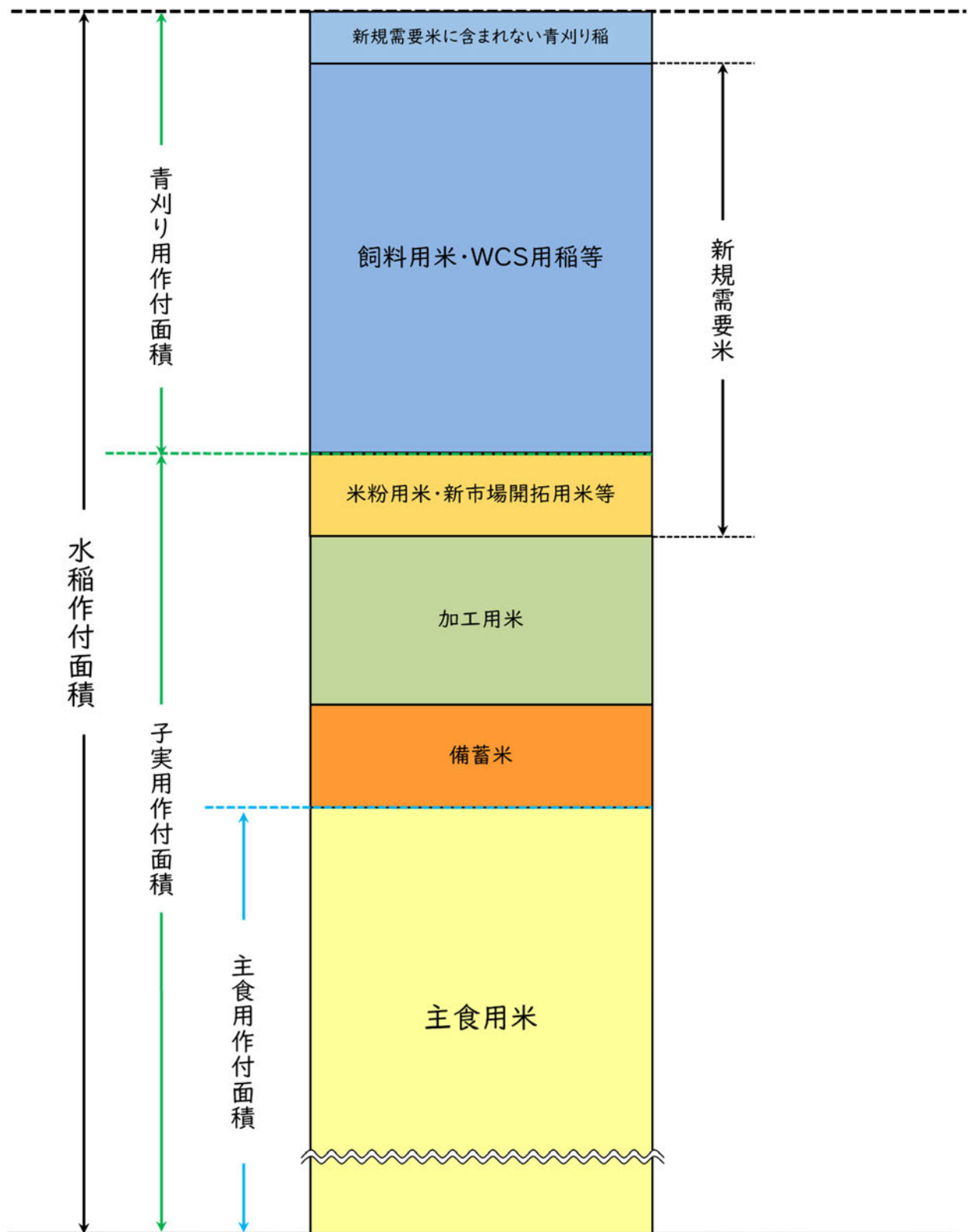
図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月25日現在）
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）



- 注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

【参考 1】

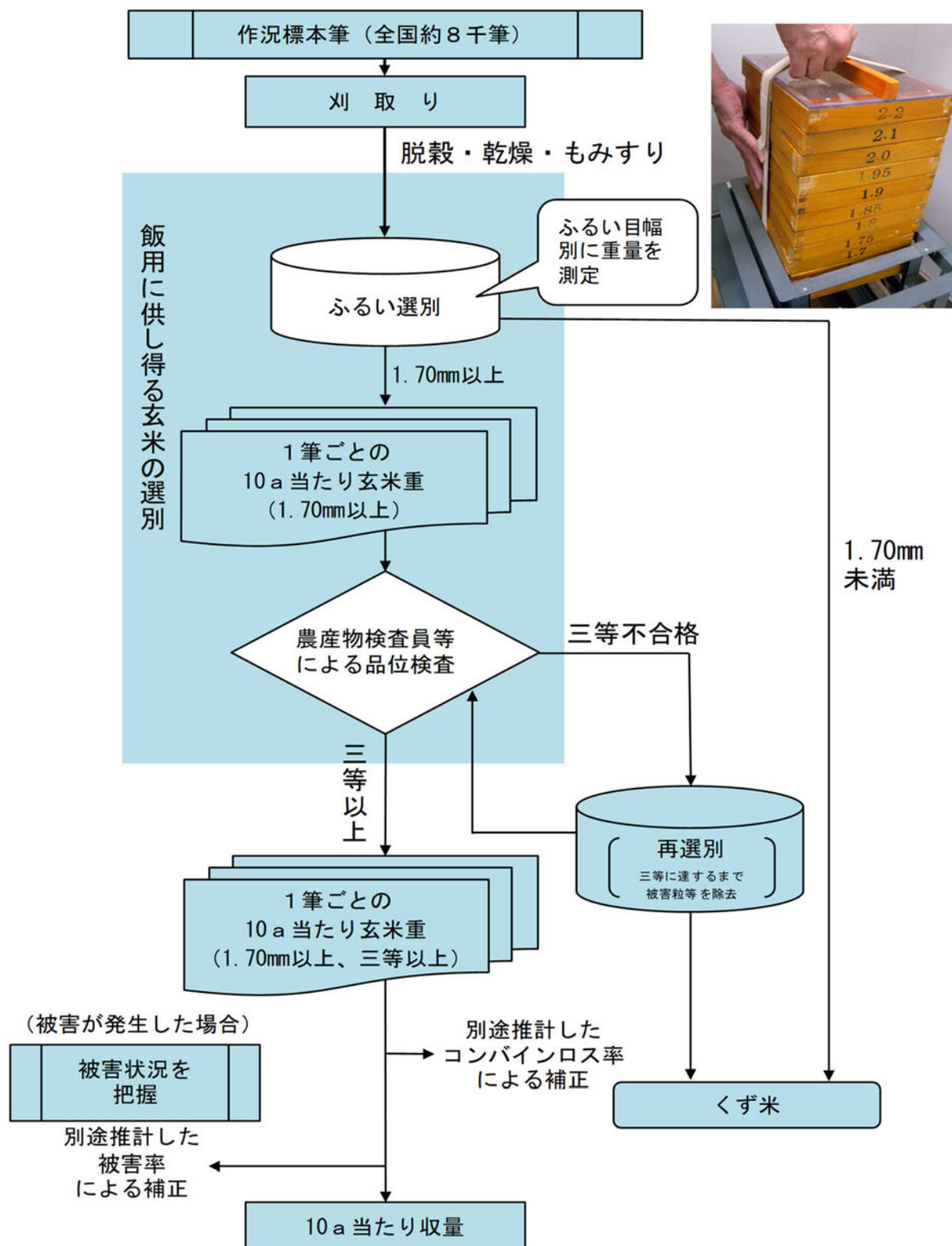
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考3】

作況標本^{ふで}筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場^{ふで}を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



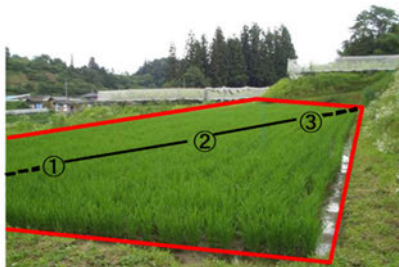
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040188540&ext=xls>

【調査の概要】

・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和6年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

・予想収穫量に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

